

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

| 達成度（評価） | |
|---------|-------------|
| A | 十分達成できている |
| B | おおむね達成できている |
| C | やや不十分である |
| D | 不十分である |

| | |
|------------------|--|
| 学校名 | 伊万里市立波多津小学校 |
| 1 前年度 評価結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・全体的な評価結果として、全ての項目でAまたはBの評価となり、一定の成果が上げられたと考える。 ・いじめ問題への対応では、アンケート調査や個人面談などにより早期発見、早期対応に努めることができた。また、職員連絡会で気にしたい子の報告を毎週行うことで、職員全体で共通理解を図って対応することができた。 ・「すてきポスト」などの取組により、児童同士で互いのよさや頑張りを伝え合うことができた。また、職員も意識して児童のよさや頑張りを伝えたことで、「自分によいところがある」と回答した児童の割合が高くなり、児童の自己肯定感を高めることができたと考える。 ・地域の「人・もの・こと」を生かした学習活動にたくに力を入れた。コミュニティセンターや地域団体との連携を積極的に行い、地域素材の発掘や地域人材の活用が活発にできた。それにより、地域のよさを感じ取っている児童も多い。 |
| 2 学校教育目標 | は：励んで光る た：愉しんで光る つ：つながって光る |
| 3 本年度の重点目標 | <ol style="list-style-type: none"> ① 思考力、判断力、表現力の育成を目指した授業の創造を図る。 ② 自他の生命や人権を尊重する心、自己肯定感・自己有用感の育成を図る。 |

| 4 重点取組内容・成果指標 | | | 中間評価 | | 5 最終評価 | | 主な担当者 | | | |
|---------------|--|---|---|-------------|---|-------------|---|----|--|--------------------------------------|
| (1)共通評価項目 | | | | | | | | | | |
| 重点取組 | 取組内容 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 中間評価 | 最終評価 | 学校関係者評価 | | | | |
| 評価項目 | 取組内容 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 進捗度 (評価) | 進捗状況と見通し | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| ●学力の向上 | ○確かな学力の定着 | ○既習内容を基に考えた自分の考えを発表し、友達の発言に反応する児童80%以上 ○学校評価アンケートで「学校の勉強はよくわかる」と回答した児童85%以上 | ・校内研において「授業展開の工夫」対話活動の充実を中心におき、促進を図る。 ・低、中、高学年の3グループに分かれ、各グループで年1回の全体授業研を行う。 ・スキルタイムでは、プリントやAI型ドリル(eライブラリ)を活用し、基礎基本の定着を図る。 | B | ・アンケートにより、「自分の考えをもち、発表することができる」と回答した児童80.7%、「学校の勉強はよく分かる」と回答した児童84.5%という結果になった。そこで、全体の場で自分の考えに自信をもって発表できるようにするために「授業展開の工夫」や「対話活動の充実」を中心においた授業実践を行っている。 ・全体授業研については、計画通り行うことができた。 ・基礎基本の定着を図るために、AI型ドリルの活用をさらに広げていきたい。 | A | ・「授業展開の工夫」「対話活動の充実」を中心においた授業を行った結果、アンケートで「自分の考えを発表し、友達の発言に反応する」と回答した児童82.5%、「学校の勉強はよく分かる」と回答した児童85.9%であった。 ・全体授業研を行い、授業の工夫や手立てを全職員で共有することで、対話活動の充実につなげることができた。 ・プリントやAI型ドリル、学習アプリを活用することで、児童が意欲的に取り組み、基礎基本の定着につながった。 | A | ・自分の意見をしっかりと伝え、友達の発言にも耳を傾け、同調したり一緒に考えたりして、いろいろな考えがもてるようになってきているのが分かった。 ・先生間での情報共有ができており、子供たちの勉強に対する意欲も向上しているのよきと思ふ。 ・コミュニケーション力に重点を置いて指導されていると思う。 ・子供たちの反応が一番だと思う。 ・「学校の勉強はよく分かる」との回答85.9%はすばらしい。 ・学力の向上には、自分の興味関心がモチベーションとなり、自分の意志でやる気を出すことが重要。小学生のときは、あらゆる体験や経験を通して知る喜びを体感することが大事。このため、今取り組まれている「はたらく人プロジェクト」は非常に良い機会を提供してくれると思う。「知ることは嬉しい、楽しい」が学力の向上を促進してくれると思う。「生涯学習」 | ・研究主任 ・学力向上対策コーディネーター |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○学校評価アンケートによる友達に思いやりのある態度や言葉遣いで接することができる児童95%以上 | ・「すてきカード」に全校で取り組むことで、自己肯定感の向上につなげ、友達のよさに目を向ける児童を育てる。 ・集会活動（平和集会、人権集会、特技集会等）や道徳等の授業実践により、自他ともに大切にしようとする心を育む。 | A | ・「すてきカード」に全校で取り組んだことで、異学年の友達のよさに目を向けることができた。 ・平和集会では、元高校生平和大使を講師に招き、講話を通して命の尊さについて考えた。 ・アンケートで「友達に思いやりのある態度や言葉遣いで接することができる」と回答した児童94%であった。 ・継続して「すてきカード」に取り組んだり、特技集会や人権集会を実施したりして豊かな心の育成を目指す。 | A | ・「すてきカード」の取組により、全校児童が友達の良さを見つけ、カードに書くことができた。それにより、児童の自己肯定感を高めることができた。 ・生活アンケートで「友達に思いやりのある態度や言葉遣いで接することができる」と回答した児童93%であった。 ・平和集会や人権集会、特技集会を行うことで、命の大切さや思いやりのある心、友達の良さを認めようとする心を育むことができた。また、感想交流の場を設けることで、異学年の友達とも集いで学んだことを伝え合うことができた。 | A | ・すてきカードの取組を継続されていく中で、児童が率先して行動しているのが感じられる。すてきなことだと思う。 ・他人の弱点を見つけるのではなく、いいところを見つける「すてきカード」良い取組ですね。 ・すてきカードはよいと思うので、続けてほしい。 ・心の教育については、自己・自我の形成に関連させながら、「自分自身」は何よりも大切なんだという意識を育てていくことが大切だと思う。このことが分かっていると、自他の生命の大切さや他者との関わり方なども理解されていくのではと思う。学校は、その気づきの機会を与える場所であってほしい。 | ・人権・同和教育担当 ・道徳教育推進担当 ・文化・特活部主任 |
| | ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 | ○保護者アンケートの「いじめに対する学校の取組」の評価を85%以上 | ・こころのアンケート(1回/月)やQ-U(2回/年)を実施するとともに、個別の面談を定期的に行うことで、いじめ等の早期発見、早期対応に努める。 ・職員連絡会で気にしたい子の報告をして共通理解を図って対応する。 | A | ・こころのアンケート(1回/月)を実施し、悩みや不安がある児童に対しては個別に面談を行い、早期対応できている。また、職員連絡会でも、気になる子への共通理解が十分できている。 ・Q-U実施後に研修会を行い、学級集団の実態を把握し、具体的な支援を考えることができた。 ・友達の名前の呼び方で、呼び捨てやあだ名をなくす指導を行ったが、継続した指導が必要である。 | A | ・こころのアンケート(1回/月)を実施し、悩みや不安がある児童に対しては個別に面談を行い、早期対応ができた。クラスの実態によっては、独自の教育相談週間を設け、一人一人と向き合う時間をつくり、問題の解決や予防に取り組んだ。また、職員連絡会でも、気になる子への共通理解が十分できている。アンケートで「わが子はいじめをうけていない」と回答した保護者99%であった。 ・Q-Uを年間2回実施した。1回目終了時に取った具体的手立てが生き、安心してクラスに所属できる方向への変容が見られた。 | A | ・こころのアンケートも毎月出されているようで、すぐに対応されている。ただ、アンケートにも少数の意見もあるように、言えずにいる子もあると思うので、今後もフォローをお願いいたします。 ・なかなか表に出ない問題です。アンケートで児童の行動に気づいてください。 ・いじめと感じる保護者が大変少ないことは、先生方の指導がすぐれていると思う。 ・いじめは早期発見、早期対応が大切である。今後共、緊張感をもって子供の教育にあたってほしい。 | ・教育相談担当 ・生活部主任 |
| | ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 | ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上 | ・職員も児童のよさや頑張りを見つけ、「すてきカード」で全校で紹介する活動を積極的に行う。 ・キャリアパスポートを活用したり、企業などから講師を招聘したりして、将来の夢や目標について考える場を設定する。 | A | ・「すてきカード」は、歓迎集会や運動会、生活習慣等のテーマを提示し、職員も共に取り組み手本を見せながら、児童のよさや頑張りを積極的に見付ける活動を行った。これにより、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童92%であった。 ・授業や家庭学習など、将来の夢や目標について考える場を設定したことで、90%の児童が「将来の夢や目標を持っている」と回答した。 | A | ・年間を通して、行事や学校生活でのよさに目を向け、職員も「すてきカード」に取り組むことで、児童は様々な先生から認められていることを実感することができた。よって、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童93%であった。 ・「はたらく人プロジェクト」や企業見学など将来の夢や目標について考える場を多く設定した。それにより、90%の児童が「将来の夢や目標をもっている」と回答した。特に高学年においては、働く上で大切なことについて、マナーや心構えに加えて「感謝の心」をもつことも重要だと気付くことができた。 | A | ・「はたらく人プロジェクト」はよかったと思う。 ・回答率が90%を超えているのはすごい。 ・特に、小学校上学年での夢や目標が、これからの中学校生活に大きく左右してくる。非常に大切で充実した小学生時代を過ごしてほしい。 | ・教務主任 ・文化・特活部主任 |
| ●健康・体づくり | ●望ましい生活習慣の形成 | ○平日に朝食を摂取する児童95%以上 ○早寝早起きについて、自分で立てた目標を達成できた児童90%以上 | ・生活習慣に関する取り組みを委員会で行う。 ・給食試食会や健康教育の授業を行い、保護者も巻き込んだ取り組みを行う。 ・栄養教諭と担任が連携し、食育の授業を行う。 ・早寝早起きの自己目標を立てさせ、定期的に振り返りを行う。また、長期休業後には強化週間を設ける。 | B | ・平日に朝食を摂取していると肯定的に回答した児童は98%であった。しかし、「毎朝食べる」と回答した児童は75%であり、2学期からも保健だよりやチェックシートを継続して行い、家庭との連携を深めていく。10月に全校児童に向けた食育講話を実施予定である。 ・夏季休業前に生活習慣について保健便りを配付し、休業後にはチェックシートを用い強化週間を実施した。早寝早起きについて、自分で立てた目標を達成できた肯定的に回答した児童は83%であったため、今後も取組を継続していく。 | B | ・継続して保健便りの発行やチェックシートを行ったり、食育講話を実施したりし、児童や家庭との関わりを深めた。平日に朝食を摂取していると肯定的に回答した児童は99%であり、そのうち「毎朝食べる」と回答した児童は81%と高まった。 ・冬季休業明けに強化週間を再度実施した。保護者にも保健便りを通し生活習慣の見直しを呼び掛けた。早寝早起きについて、自分で立てた目標を達成できた肯定的に回答した児童は季節による影響も大きく81%と減少した。 | B | ・食育については、しっかり食事がとれているのが分かった。早寝早起きに関しては、親が遅くまでテレビを見たりしていると、子どもと一緒にいるので、育友会と一緒に対応できたらいいですね。 ・学校保健委員会のときから早寝・早起き・朝ご飯について話を聞いていたが、学校側だけでなく、各家庭の協力も必要だと思う。そのため、育友会の取組の1つとして協力していけたらと思う。 ・食の大切さを学校から発信してください。 ・早寝早起きはなかなか難しい。冬場は、朝特に寒くて布団から出られないことが多い(孫を見て)。 ・規則正しい生活から確かな学力の定着が生まれると思う。 | ・食育推進担当 ・保体部主任 |
| | ○目標をもって体力づくりに取り組む教育活動。 | ○体を動かす遊びをしたり、一輪車の練習をしたりするなど、進んで運動ができる児童90%以上 ○スポーツチャレンジ3種目(ドッジボールラリー、8の字とび、みんなで輪くぐり)のうち、1種目以上に全学年参加する。 | ・健康委員会主催でスポーツレクリエーションの全校で行う。 ・なかよしタイムで一輪車の練習をしたり、体を動かす遊びをしたりして、児童の運動への意欲を高める。 ・一輪車カードを活用して、昼休みなど楽しく遊べるようにする。 ・県保健体育課実施のスポーツチャレンジを利用し、積極的に運動に関われるようにする。 | A | ・アンケートで「進んで運動している」と肯定的に回答した児童は91%であった。夏季は、熱中症対策のため運動を制限することもあったが、運動会前になかよしタイムで一輪車の練習をしたり、7月に全校ドッジボール大会を行ったりした。10月にもスポーツレクリエーションや全校で一輪車の練習を計画し、実施予定である。 ・スポーツチャレンジについて、夏季休業中に職員会議で周知をした。9月～12月で全学年での取り組みを推進していく。 | A | ・なかよしタイムで一輪車ラリーを実施したり、綱引き大会、玉入れ大会を開催したりと、全校で運動ができる機会を設けた。「進んで運動している」と肯定的に回答した児童は89%と若干減少したが、「とてもそう思う」と回答した児童が47%から60%へと大幅に増加した。 ・全校でスポーツチャレンジに取り組み、各学年一つ以上の種目に参加することができた。 | A | ・1年生から6年生まで助け合って、一緒に体を動かすことができるのは、波多津小ならではのですね。みんなでやることでスポーツが楽しくなると思ふ。 ・一輪車の学校と特色があり、みんなが乗れるように頑張っていると思う。 | ・保体部主任 |

| | | | | | | | | |
|---------------------------|--------------------------------|---|--|-----------------|--|-----------------|--|------------------------|
| <p>●業務改善・教職員の働き方改革の推進</p> | <p>●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減</p> | <p>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。(時間外勤務時間45時間未満の職員90%以上)</p> | <p>・業務記録票を基に勤務時間の管理を行い、超過勤務時間が多い職員については、個別に指導や支援を行う。 ・定時退勤日の設定・徹底、行事や会議の精選・効率化・時間短縮を進める。 ・ICTを活用し、業務の効率化を図る。</p> | <p>A</p> | <p>・時間外勤務時間の上限をほとんどの職員が遵守できた。若手職員の超過勤務が目立っていたが、管理職からの声掛けや支援を行うことで退勤時刻も早くなった。 ・会議資料を3日前までに配付し、各自目を通しておくようにしたことで見通しをもって話し合いに臨むことができた。 ・会議時間の短縮を図ることができた。 ・定時退勤日の実施率は4～6月は約70%、7～9月はほぼ100%であった。</p> | <p>A</p> | <p>・先生方の忙しさ分かりますが、上限を越さなかったら良いではなく、いかに残らないかを考えてもらったらと思います。厳しい意見で申し訳ありませんが、時間外が当たり前にならないよう願っています。 ・先生方の業務の効率化が進んでいる数字だと思う。</p> | <p>・管理職</p> |
| <p>●特別支援教育の充実</p> | <p>○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上</p> | <p>○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上</p> | <p>・発達障害児の理解と具体的・実践的な支援について、特別支援教育エリアリーダーを招聘しての夏季研修会を実施する。 ・支援を要する児童の共通理解を図る。 ・特別支援教育に関する情報を学期に1回以上通信にして職員全体で共有する。</p> | <p>A</p> | <p>・発達障害児の理解と具体的・実践的な支援について夏季研修を実施し、発達障害への理解や授業のユニバーサルデザインについての考え方や支援方法の実践意識を高めることができた。 ・特別支援教育に関する専門性を、研修等を通して向上させることができたと全職員が回答した。</p> | <p>A</p> | <p>・近年の特別支援については、本当に大変だろうなあと思います。児童と一緒に頑張ろうと声をかける姿も見ます。周りの理解も必要ですね。子供たちにも感心します。 ・講師を招いて夏季研修会を実施され、職員間での情報共有もはっきりされているので、今後も職員間の連携を継続していただきたい。 ・全職員の皆さんが回答されたことは素晴らしいことです。 ・外部の者として知りたいのは、何名在籍し、どういう状況なのかということ。機会あるごとに公表して、理解を深めてほしい。</p> | <p>・特別支援教育コーディネーター</p> |

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

| 重点取組 | | | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
|--------------------|----------------------------------|---|--|-----------------|---|-----------------|--|---------------------------------------|-------|-------|
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標(数値目標) | | 進捗度(評価) | 進捗状況と見通し | 達成度(評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| <p>○地域とともにある学校</p> | <p>○地域の「人・もの・こと」を活用した教育活動の推進</p> | <p>○教科と関連付け、各学年2回以上の地域人材活用 ○地域のよさを知り、地域に誇りや愛着があると感じる児童90%以上</p> | <p>・地域の「ひと・もの・こと」を生かしながら、児童が主体的に地域と関わることができる学習課題の設定を行う。 ・コミュニティセンターや地域団体と連携し、地域を素材とした学習にスムーズに取り組むことのできる環境を整える。</p> | <p>A</p> | <p>・コミュニティセンターや地域団体との連携を行い、地域素材を教科等と関連させた学習を展開することができている。上期で各学年1回以上の地域人材の活用ができた。 ・児童は地域のよさを感じ取り、アンケートでは98%の児童が「これからもずっと地域の人・もの・ことを大切にしていきたい」と回答した。しかし、地域のよいところを言えないという児童が低学年に見られるため、下期は地域のよさを見つめさせる学習を展開していきたい。</p> | <p>A</p> | <p>・夢や目標をもち、興味をもつことで、子供たちの学力・行動力も向上する。コミュニケーション力もつくので、今後もいろいろな体験をしてほしい。 ・子供(児童)が少ないので、接点がないような気がする。 ・青嶺中校区3校合同業務は素晴らしいです。今後も続けてください。地域も呼び掛けがあれば協力したいと思います。 ・令和6年度の波多津小学校の「地域連携、外部講師一覧」を拝見して、いろいろな方の支援・協力での見事な学校経営に感謝します。 ・これだけの地域連携をしている学校があるだろうか。自信をもって子供の教育にあたってほしい。</p> | <p>・教頭 ・教務主任 ・総合的な学習の時間主任</p> | | |

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

| | |
|-----------------------|---|
| <p>5 総合評価・次年度への展望</p> | <p>・成果指標の設定に際し、具体的な行動や結果の数値目標を設定し、育てたい児童の姿をしっかりとイメージしながら指導に当たるようにした。全体的な評価結果として、全ての項目でAまたはBの評価となり、一定の成果が上げられたと考える。 ・いじめ問題への対応では、アンケート調査や個人面談、職員連絡会での情報共有などにより早期発見、早期対応に努めることができた。また、集会活動や「すてきカード」の取組、対話活動の充実などを通して、命の尊さや思いやりの心、友達の良さを認めようとする心を育むことができた。 ・地域の「人・もの・こと」を生かした学習活動の充実を図った。コミュニティセンターや地域団体との連携を積極的に行い、地域素材の発掘や地域人材の活用が昨年度以上に活発にできた。また、「はたらく人プロジェクト」の実施により、児童は「働くこと」の意味や意義に気付くとともに、地元のもつ魅力も感じ取っていた。また、県内や地域に暮らす人々とのつながりにも気付くことができた。 ・望ましい生活習慣の形成において、「早寝、早起き、朝ご飯」の推進に力を入れた。学校と家庭が一体となった取組が不可欠であり、取組をより強化するためにも来年度は育友会とも連携しながら取組を進めていきたい。 ・中間評価を適切に実施し、PDCAサイクルを効率的に循環させることで、学校教育目標の達成に向けて、教職員、保護者、地域の方々がかかわりを深めながら取り組んでいけるようにしたい。</p> |
|-----------------------|---|